

1988	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
9	•	•	•	•	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	•	•	•	•	•

● 毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
 そなえ…したく、用意、警戒、防衛
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!



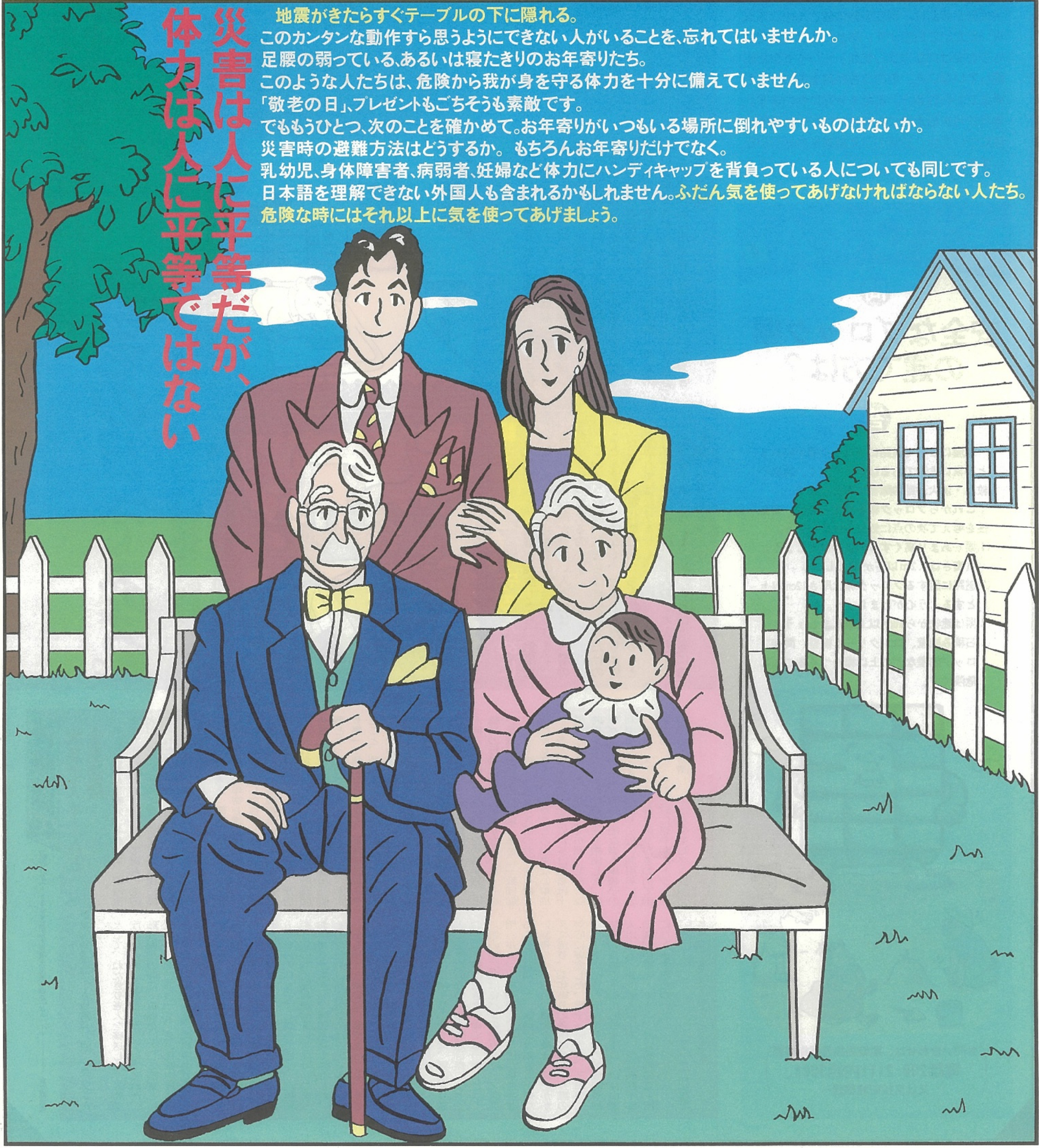
かわさき
 防災広報紙

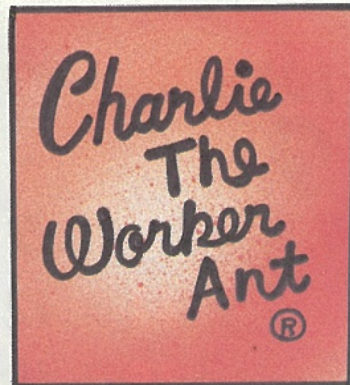
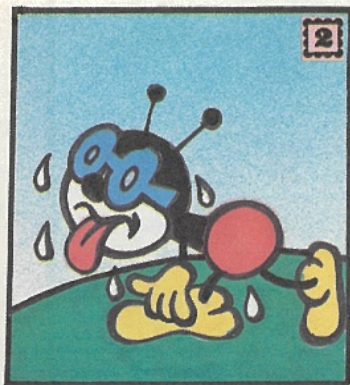
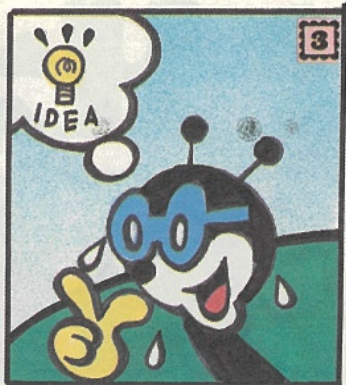
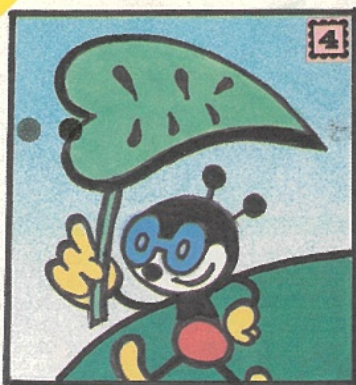
NO.
49

昭和63年8月31日発行
 発行●川崎市
 編集●土木局防災対策室
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL (044) 200-2111内線2841

災害は人に平等だが、
 体力は人に平等ではない

地震がきたらすぐテーブルの下に隠れる。
 このカンタンな動作すら思うようにできない人がいることを、忘れてはいませんか。
 足腰の弱っている、あるいは寝たきりのお年寄りたち。
 このような人たちは、危険から我が身を守る体力を十分に備えていません。
 「敬老の日」、プレゼントもごちそうも素敵です。
 でももうひとつ、次のことを確かめて。お年寄りがいつもいる場所に倒れやすいものはないか。
 災害時の避難方法はどうするか。もちろんお年寄りだけでなく。
 乳幼児、身体障害者、病弱者、妊婦など体力にハンディキャップを背負っている人についても同じです。
 日本語を理解できない外国人も含まれるかもしれません。ふだん気を使ってあげなければならない人たち。
 危険な時にはそれ以上に気を使ってあげましょう。





災害がおきた日こそ、敬老の日である。

災害の犠牲者は

昭和62年6月6日深夜に、東京都東村山市の特別養護老人ホーム「松寿園」で火災が発生し、老人17人の死者を出しました。このように、災害で老年寄り、乳幼児、病弱者などが犠牲になるケースが多くなっています。

それは、災害が発生した場合、災害を自分で知り、自分のとるべき行動を判断し、自分の安全を守る行動がとれる、という一連の行動が困難であるために犠牲になってしまうのです。健康な一般の人々にとっては、避難するとき階段があっても問題になりませんが、10数cmの段差のため避難できない人がいることを忘れてはなりません。

お年寄りや幼児などを 守るには

① 私たちの家族の中に、お年寄りや幼児、病人などがある場合には、次のようなところに注意しましょう。
② ふだん寝る場所や居間などの家具類は転倒防止のため固定しておきましょう。できれば、そのような部屋には転倒しやすい家具をおかないのが一番です。
③ 災害がおこって物資が不足することを考え、乳幼児の粉ミルク、哺乳ビン、紙おむつなど、また病人用の常備薬などを多少多めに保存しておくことも必要です。

③ 被害が拡大して避難しなければならぬこともあるので、お年寄りや病人を安全に避難させるための方法や経路などをあらかじめ調べておきましょう。



自主防災組織の役割は

近所にお年寄りだけの家や、ふだん子供だけで留守番をしている家はないでしょうか。また家族だけでは安全に避難できない場合もでてくる可能性があります。このため、町内の自主防災組織では災害に弱い人たちのために、次のような活動も実施しなければなりません。
① ふだんからお年寄りだけの家、病人のいる家などに声をかけ、いざというときまず第一に救出できる体制をとっておきましょう。

② けが人を運ぶ担架や、物資を運ぶリヤカーは、災害発生時にお年寄りや病人を運ぶためにも役立ちます。自主防災組織で、防災資器材の充実をはかりましょう。



大事な生命を守るために

大地震などの災害が発生したら、健康な一般の人々にさえも身の危険が及びます。身体が自由に動かせない人々には、一層の危険が迫っているのです。このような時、私たちは自分たちだけのことをするのではなく、近所の人たちと協力して、災害に弱い人々を救出することも忘れてはなりません。私たちの町からは、1人のケガ人も1人の死者も出さないことが、本当に災害に強い街づくりになります。

世帯別(地震安全性)総合診断はお受けになりましたか

「備える」前号(No.48)で特集した地震安全性総合診断は、現在多数の皆さんのご応募をいただいております。あなたのご家庭ではもうお受けになりましたか。忙しくてまだ応募していない方、そのうち時間をみつけてと考えておられる方、まだ十分間に合います。本年12月末日までにお寄せいただいた回答用紙については、診断のうえ結果をお送りいたします。

防災Q&A 4

問

安全なブロック塀の建て方は?

答

地震によって道路にブロック塀が倒れると非常に危険であるばかりでなく、避難や救助・消火活動の障害にもなります。

これからブロック塀を建てる方は、安全性を考えて次の点に気をつけましょう。

- (1) 塀をあまり高くするのは避けましょう。(高さは2.2m以下が望ましい。)
- (2) 道路に面するブロック塀は厚さ12cm以上とするよう心がけましょう。
- (3) 塀は建物から50cm以上離しましょう。
- (4) 石積み擁壁、コンクリート擁壁、間知ブロック擁壁などの上に塀をつくることは危険です。



お問い合わせは、建築局指導部指導課
電話200-2111内線3008、
又は区役所建築課へ

体験談 49

大島老人ホームと全島避難

伊豆大島老人ホーム施設長 原 タツさん

凄まじい割れ目噴火、それに続く溶岩流、まるで赤い川が帯の様になって流れ、その火がいまにも施設に押し寄せて来る様に感じられた。施設長、溶岩流がホームのすぐそばまで流れて来ています」と職員が何回も報告に来る。とにかく落ちついた行動が何より大事と考え、職員は落ちついて行動して下さい。お年寄り達には、職員がついていけるから安心しなさい」とメガホンで呼び続けた。町の避難指示は近くの小学校の校庭へ避難せよというものであった。溶岩流の流れから見て、その情勢判断には疑問を感じ町役場と交渉の結果、避難先は元町港となったのである。この大集団を、かすり傷一つ負わせないで、避難を達成出来たこと、判断適否が事故発生時の有無を左右する決め手となることを心に痛く感じた次第である。夜明け明けや休日も自主参集し、一夜を過ごすための毛布やふとんを必死で運ぶ寮母、こうした行動は防災訓練のたまものであると感じた。職員同士で、「○○さん何々をお願い、私は何々をやるから」と職員は行動は迅速で無駄がなかった。一をいえば二をささる行動は、まさに一致団結のためである。入所のお年寄りは、寝たきり老人と、歩くことが出来ない車椅子の老人ばかりで、歩くことが出来る者は十名ほどであった。晒の紐で布団、毛布の臨時担架をつくりお年寄り達を搬出した。配車バス二台には、歩行可能な者も車椅子の利用者も、また寝たきりに近い利用者にとっても、ステップの昇り降りがきわめて困難であった。そこで町に連やかにトラックの配車を要請し、ふとんを重ねクッション

伊豆大島噴火、昭和61年11月15日、12年ぶり三度目の噴火を開始。11月15日の割れ目噴火の約22時50分、島内全域に「全島避難」の指示が出された。

(一部省略)